

一般質問通告書

佐野市議会議長 様

受付	番号 13
	令和 8年5月28日
	午前 11時00分

議会名	令和 8 年 第 2 回 佐野市議会定例会	
発言者	議席番号 1 番 堀川 悦郎	
答弁を求める者 (選択してください)	<input type="checkbox"/> 市長 ・ <input type="checkbox"/> 副市長 ・ <input type="checkbox"/> 教育長 ・ <input type="checkbox"/> 担当部局長	
一般質問時に使用する資料の有無 (選択してください)	<input checked="" type="checkbox"/> あり (資料提示 ・ 資料配付 ・ モニター使用) <input type="checkbox"/> なし	
大項目 (質問項目) 中項目 (質問細目)	小項目 (具体的な質問内容)	
1 天明鋳物を核とした「選ばれる佐野市」への飛躍と官民協働による1000年の歴史の継承について (1) 歴史を次世代に伝え、守り抜くための基盤作りについて	① 現在本市で把握している市制作の公式資料の有無について伺います。 ② プロモーションの土台となる公式資料の官民協働による作成について伺います。 ③ 重要有形民俗文化財の「保存・展示施設」の整備に向けた進捗と今後のスケジュールについてどのような検討が進められてきたのか伺いします。 ④ 第2次後期基本計画に基づき、「芦屋釜」の事例に学ぶ、技術継承に向けた行政主導の後継者育成の基盤作りについて伺います。 ⑤ 新設義務教育学校・小中一貫校における「天明鋳物に見て触れられるスペース」の設置による、子どもたちのシビックプライド(郷土愛)を醸成する取り組みについて伺います。	

<p>2 多文化共生社会の推進と外国人市民のための環境整備について</p> <p>(1) 佐野市内における外国人の現状と課題について</p> <p>(2) 窓口業務と外国人市民情報発信について</p> <p>(3) 日本人市民と外国人市民の積極的な交流促進について伺います</p> <p>3 児童生徒の命を守る対策について</p> <p>(1) 登下校時の熱中症に対する現状認識について</p>	<p>⑥ 1000年の歴史を次の100年へつなぐための長期ビジョンの考えをお伺いします。</p> <p>① 本市における外国人の実態（人数・国籍・他市比較など）と推移予測について伺います。</p> <p>② 本市に住む外国人が、日本の文化やルールを理解する上で、どのような課題と対策があるか伺います。</p> <p>① 窓口業務の現状とコミュニケーションの課題について伺います。</p> <p>② 外国人との共生を進めていくうえで、市として基本的なマナー（ごみ処理問題など）周知について伺います。</p> <p>③ 窓口業務効率の為の「やさしい日本語」や多言語を用いた視覚的な手引書・動画の導入について伺います。</p> <p>① 町会などで外国人市民とのコミュニケーションで困った際、市としてどのように関わり、サポートしていくのか伺います。</p> <p>② 外国人市民にも「選ばれる佐野市」となるためのビジョンについて伺います。</p> <p>① 熱中症に対する現行のガイドラインについて伺います。</p>
---	---

<p>(2) 学校統合・義務教育学校化に伴う通学路の防犯灯の整備促進と安全確保について</p>	<p>② 酷暑を乗り切る「新しい学校生活様式」の確立に向け、クーリングシェルターのさらなる活用や、登下校のあり方の見直しなど、熱中症対策の佐野モデルの作成について伺います。</p> <p>③ 天明小学校における冷凍庫設置・ネッククーラー再凍結の実験的な取り組みの評価について伺います。</p> <p>④ 日本教育新聞の報道および静岡市の先行事例を踏まえた、市内小中義務教育学校へ冷凍庫の設置について伺います。</p> <p>① 市内小中義務教育学校の通学路における防犯灯の整備状況について伺います。</p> <p>② 令和9年度の出流原・赤見小学校統合や義務教育学校化に伴う通学路の延長や、新たな通学路を見据え、特に冬季の夕暮れや部活動終了後における安全確保のため、防犯灯の優先的な設置における考えについて伺います。</p> <p>③ 第2次後期基本計画を見据えた、「安心・安全なまちづくり」を具現化するため、ハード面（防犯灯や防犯カメラなど）に加え、ソフト面（通学路の合同点検や、警察・地域との連携による見守り）の充実など、総合的な安全確保について伺います。</p>
<p>4 次期学習指導要領を見据えた本市の教育の展望と環境整備について</p> <p>(1) 次期学習指導要領改訂の方向性と本市の基本認識について</p>	<p>① 現行の学習指導要領の成果と課題の認識について伺います。</p> <p>② 生成AI時代における「自ら問いを立てる力」や「納得解」を導き出せる子どもの育成について伺います。</p>

<p>(2) 多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程と「調整授業時数制度」の活用について</p>	<p>① 「調整授業時数」及び「裁量的な時間」の本市における活用方法について伺います。</p>
<p>(3) 教育の質の向上と教師の働き方改革の両立について</p>	<p>① 次期学習指導要領では、「余白の創出」が重要視されているが、制度として時数を調整するだけでは解決できない中で、「授業改善の研修」や「子どもと向き合う時間」に充てるためには、校務DXと教員の業務のスクラップは不可欠ですが、次期学習指導要領の完全実施を待たずに取り組める具体的な検討状況や考えについて伺います。</p>